

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス こころのミカタ		
○保護者評価実施期間	R8年 3月 1 日		R8年 3月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	R8年 3月 1日		R8年 3月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3 月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの発達特性・認知特性・情緒面の状態に応じた、個性の高い支援の実施	日々の観察、保護者からの聞き取り、学校での状況、ご本人の表出や行動特性等を踏まえ、個別支援計画との整合性を意識しながら支援内容を調整しています。宿題支援、SST、集団活動への参加支援等についても、発達段階やその日のコンディションに応じて支援方法を柔軟に選択し、無理のない参加と成功体験の積み重ねを図っています。	アセスメントの視点をさらに明確化し、支援の根拠、ねらい、評価を職員間で共通理解できる体制を強化します。記録、ケース会議、研修を通じて支援の再現性と専門性を高め、職員間で支援の質に差が生じにくい体制整備を進めます。
2	保護者との継続的な情報共有と協働的な支援体制の構築	送迎時の対話、連絡ツール、面談等を通じて、当日の様子だけでなく、行動の背景、成長の兆し、配慮が必要な点についてできる限り具体的に共有しています。保護者の不安、意向、家庭での困り感を丁寧に受け止め、必要に応じて個別支援計画や日々の支援内容へ反映できるよう努めています。	支援経過や評価の共有がより伝わりやすいものとなるよう、説明内容の構造化を進めます。定期面談や情報提供の機会を整理し、保護者が相談しやすく、支援の方向性を共有しやすい体制の強化を図ります。
3	安心感を基盤とした関係形成と、通所継続を支える支援環境の整備	子どもが安心して自分を表現し、「わかる」「できる」「伝えられる」という経験を積み重ねられるよう、受容的な関わり、見通しを持ちやすい声かけ、環境調整、成功体験の積み重ねを重視しています。支援においては、情緒の安定を土台としながら主体性や自己表出を引き出せるよう配慮しています。	今後も安全管理及び環境整備を徹底するとともに、構造化、視覚的支援、緊急時対応、事故予防の取組をより明確にし、保護者に対して安心につながる形で継続的に周知していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流及び関係機関・地域資源との連携機会の充実	日々の支援提供を安定的に実施することを優先する中で、地域交流や外部機関との協働機会を計画的に位置付けるまでには至らない場面がありました。また、実施している取組についても、保護者へ十分に伝わっていない可能性があります。	地域資源、関係機関、外部活動に関する情報収集を進め、子どもの発達段階や安全面に配慮したうえで参加可能な機会を整理します。実施状況や意義については、お便り、ホームページ、SNS等を活用し、わかりやすく発信していきます。
2	家族支援プログラム及び保護者相互交流支援の体系化	個別相談や日々の共有は継続している一方で、保護者向けの学びの機会、家族支援プログラムとしての整理、保護者同士が安心してつながれる場づくりについては、十分な実施頻度や体系性の確保に至っていません。	保護者ニーズを丁寧に把握したうえで、ミニ相談会、情報提供、家族支援資料の発信等を段階的に実施します。参加しやすい形式や頻度を検討し、事業所として継続可能で、かつ保護者にとって有用性の高い支援機会の整備を進めます。
3	非常時対応及び安全確保に関する取組の周知・説明の充実	事業所内では事故防止、感染症対策、災害時対応、防犯対応等に関するマニュアル整備及び訓練を進めていますが、その内容、実施状況、具体的な備えについて保護者へ十分に周知できていないことが、評価結果から示唆されました。	事故防止、感染症、災害、防犯等に関するマニュアル及び訓練実施状況について、文書、掲示、ホームページ等を通じて定期的に発信します。周知のみでなく、保護者が理解しやすい説明方法を工夫し、安心につながる情報提供を強化します。